

イエスはまなり



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設された基督教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 135号

イエスは命のパン



本多英一郎

「その場がどーんともり上がる雑学の本」という文庫本が面白い。その中に「食事はなぜ一日三回食べるのだろうか」という項目があります。三度のメシより好き、ということばがあります。神学校の同級生にギリシャ語のアルファベットがごはんのつぶに見えるという人がおりました。しかしいくらギリシャ語を食べても肉の腹は満たされません。腹が減ってはいくさ（勉強）も出来ません。この項目には次のようなことが書いてあります。「一日に二度しか食事をしないという人は、いまだき、相撲力士とダイエット中の女性くらいなもの。忙しすぎて食事を抜かしたり、二日酔いで箸も持てないと言う人は論外、ふつうの人はきちんと三度食べます」。あなたは「ふつうの人」ですか。では三度三度食事をしたら元気が出るかという、必ずしもそういうわけにはいきません。人間には二つの胃があります。一つは肉体の胃、もう一つは霊の胃。霊の胃が空っぽだと、たとえ肉体の胃が満腹でも、何をする気力も湧いてきません。私たちは肉の胃を満たす為には三度の食事を摂るのに気をつけますが、霊の胃を満たす為にも同じような気遣いをしているのでしょうか。聖書も読まず。祈りもせず、霊的な断食をして平気であることはないでしょうか。霊の胃を満たす食物は、いうまでもなくイエス様です。イエス様は御自身のことを「命のパン」といわれました。私たちは命のパンであるイエス様をいただいはじめて心満たされ、活力が与えられるのです。神様に造られた人間は、元来「神の口から出る一つ一つの言葉で生きる（マタイ4：4）」ようになっているのです。イエス様を霊の糧としていただくということは、ずばり聖書を読むということです。御言葉の一つ一つが神のみこころを私たちに示します。「神様、この御言葉によって私に何を教えておられるのですか」と真剣に問うならば、必ず心にひびいているものがあるはずです。誰の説明を聞かずとも、神様御自身があなたにみこころを示して下さいます。基本的には聖書を読むことが即ち説教を聴くことになるのです。神様はいつでも私たちの前に豊かなみことばの食卓を整えておられます。急いで食べる必要はありません。牛が一日中口をもぐもぐしているように、ゆっくりゆっくりいただくことです。朝、ばたばたと食べたり、寝坊をして食べずに飛び出すようなこの世の食卓のあり方を霊の食卓にまで持ち込んで、神様の豊かな接待にあづかることは出来ません。

(バプテスト連盟富山小泉町教会牧師)

展 望

スタンレー・アシュラム五十年
を前に期待と展望

大石 嗣郎

来る二〇〇五年は日本クリスチャン・アシュラム連盟が創設されて、五十周年を迎えることとなります。

当初は、日本キリスト教協議会(N.C.C) S・ジョンズ博士招聘委員会が、訪日伝道をすべて世話をしていた。その後当委員会は組織を離れて独立することにより、「日本クリスチャン・アシュラム連盟」初代委員長に、高瀬恒徳師(聖公会司祭)が就任された。この運動の母体は、旧オクスフォードグループが中心として始められた。第二代目海老沢宣道師(江古田教会)が就任されて、S・ジョンズ十回に亘る伝道旅行を契機に、年々キリスト教各派動として広まることになった。その後博士ご自身の発案により、連盟が組織され、八地区の組織団体が設置された。

S・ジョンズ博士の提唱で、一九七三年第一回エルサレム世界大会が、第二回をインドにて行われ、第三回を日本で一九七八年十月に強く要請され、一五〇名(諸外国十人)により御殿場東山荘にて行われた。その後変則的に四年毎に行われ、二〇〇〇年に七十年祭として第十回をインド、サッタールにて行われた。過去五十年の間に、アシュラムを基盤として「訪問伝道委員会」その後改称して「心の友伝道」が今日も尚全国的に運動を展開している。機関誌として「日本アシュラム」一三四号(二〇〇三年十二月発行)が発刊されている。

それに出版物として、二カ月毎に「アパ・ルーム」が発刊されている。日毎の糧刊行誌として、一万二千部、日本でトップの座を維持している。(教文館調べ)これは米国の二百万部(ナシビル市)の日本訳として、全国的教会単位及び個人単位として購読者を拡大させている。

以上同根の組織体が活動することによって神の国の雛形が、今日五十年という長い期間の歩みの中に、アシュラム精神が着実に維持されることにより、栄光ある五十年があったことを感謝したい。今後更にも兄弟姉妹のご協力を切に願う次第であります。

アシュラムとは何か
E・スタンレー・ジョンズ
海老沢 宣道 訳

使徒行伝に記された交わり(コイノニヤ)を教会に取り戻したいとの願いから、今日まで多くのグループ活動が起こった。このコイノニヤは聖霊の降臨によって生まれた。それは階級・人種・年齢・性別などすべての垣をこえての緊密に編まれた交わり、霊交である。コイノニヤが魂であつてそこから体になる教会が成長する。これは有機体であつてそこから教会なる組織が現われる。この霊交は聖霊の降臨と同じく、使徒行伝に言及されている(二の四十二)。教会は第五章までは言及されていない。コイノニヤのある所に教会があるのであつて、交わりを持たない所には組織はあつても教会はないのである。

現在のクリスチャンアシュラムは、インドのサト・タル(七湖)の小さな集りから成長した。インド人牧師ユナス・シンハ、英国婦人宣教師エセル・ターナーとE・スタンレー・ジョンズは交わりを求め、もつと東洋的に表現されたキリスト教を求めた。キリスト教会は世界的普遍的信仰であるが、地方色を用いることがある。インド文化からアシュラムを採用するにあつてそれは大い

に変更された。インドのアシュラムにはグル(頭首)があり、その周囲で展開される。クリスチャンアシュラムは「イエス・キリストこそこのアシュラムのグルである」という。クリスチャンは共通の一つのものイエス・キリストを持っている。キリストに属する全ての者は、キリストに属する全ての者に属する。われらは多くのことでちがいがあつてもキリストを中心にして一つであり得る。そこでアシュラムのモットーの一つは、「われらはここで交わりに入る。時にはちがいを認めるが、常に愛することを決意し、仕えるために一致する。キリスト教信仰の中心はキリストであり、その中心の中心は、言が肉体となつたこと」である。他の諸宗教においては、言は言、即ち哲学や道徳主義になる。しかしキリスト教は言が肉体となり、イデアが事実となる。」

われらはグループとして、肉となる御国の言でなければならぬ。従つて解答を見出そうとするのでなく、答えになろうとし、神の国のひな型(縮図)となろうとし、新秩序のカメオ(浮彫)となるのである。アシュラムは、協議会でも研修会でもない。それは聖霊の啓導の下に、ある真実の意味で神の国になろうとする試みである。(抜粋)

第四十一回関東アシシラムに出席して

更生教会 奥田 二郎

昨年九月に二泊三日の関東アシシラムに出席し溢れるばかりの御恵みを頂き心から感謝致しております。二日目の早朝の連鎖祈祷で、そしてそれに続く静聴の時に、聖書が私のニードに的確に答えてくださり、「聖書が語る」という事の実感を身をもって体験した時、いきる喜びがこみ上げて来ました。

その後の私の毎日は、必ずしも主に喜ばれる毎日ではありませんが、主によって変えて頂くことを、祈って過ごしております。

私にとって、関東アシシラムは今回が初めてでありましたが、一日アシシラムであります城北アシシラムには、数回出席致しておりました。しかし何度出席しても良くわかりませんでした。その意味では、今回の関東アシシラムで、アシシラムのほんの糸口を掴んだと思います。次回第四十二回関東アシシラムを心待ちに致しております。

アシシラムについて感ずるところと要望を二点ばかり申し述べさせていただきます。

その一つは、初めてアシシラムに來られる方に理解しやすいアシシラムとしていただきたい事です。特に

「開心の時」が重要な様に思います。アシシラム会員は古い方が多いようですが、「開心の時」は新しく來られた方が、引きずり込まれるように、心を開いていくよう、やさしく基本から何度も何度も説き明かしていただきたいと思ひます。このような説き明かしは、長年の会員の方にも歓迎されるものでしょう。

スタンレー・ジョーンズは「アシシラムにはグルは不用である。グルはイエスキリストである。」と言われましたが、いわゆるグルと呼ばれている機能の内、ある部分の働き、即ち「場作り」は重要で、「開心の時」はこの場作りそのものでありましよう。

関東アシシラムでは、開会礼拝、オリエンテーション、が「開心の時」の前にありましたが、これら三つは纏めて「場作り」の役として「場作りグル」が行くまでされるのが良いと思ひます。

第二はニードの事です。関東アシシラムの最初の出席者には海老沢宣道著「アシシラムの原則と実際」が渡されているようでありますが、この中に「アシシラムの目的は何かと言え私達を真にキリスト信者に変えることである。」とあります。

これがアシシラムに参加する人の第一のニードでありましよう。そし

て「神様この事を解決してください」が第二、第三のニードでありましよう。

ですからニードを言う時には、常に自分のニードが第一のニードと如何なる関係にあるかを、自問しつつニードを述べる事が必要でありましよう。そうすれば、そのニードも、「静聴の時」を通し「祈りの細胞」を通し、御言葉を与えられ、信仰の確信を得る事が出来ます。そしてアシシラムの素晴らしさも理解出来るようになりましよう。

関東アシシラム報告

飯島 庸江

去る二〇〇三年九月二十二日(月)より、秋分の日を真中にはさんで二泊三日の関東アシシラムが例年の通り山崎パン箱根山荘で開催されました。主題は、

「祈る時には」

「御名が崇められますように」
(マタイによる福音書六章九節)

でした。

助言者には西川口教会牧師で、東京聖書学校長を兼任しておられる島隆三師が立てられました。

参加者は男性二十五名、女性二十一名、計四十六名でした。新來会者が八名で、新聞の広告を見て遠路参加された方もおり感謝でした。昨年

より十四名増でした。

このアシシラムも大勢の祈りとご奉仕により支えられています。助言者も各奉仕者も聖霊に導かれ良いご奉仕をしてくださいました。祈りの細胞より一名を選んで、二日目の夕方の賛美と立証の集会で立証をしていただきました。ハーマニカ演奏もあり、長短様々な立証でしたが、「私の目には高価で尊い」と主がおっしゃってくださっている感じが



第41回関東アシシラム 2003年9月23日 山崎製パン箱根山荘

たしました。

特に印象に残っているのは、助言者の語られた「金持ちの子どもと乞食の子ども」の御話で、祈るばかりでなく、示されたことは実行すべきこと、また実行すべきことは祈りの中に示されることが、分り易く楽しく語られました。

アシユラムは、たましいとからだの神の愛によるいやし、神と遇う休暇ともいわれています。祈り漬けになる、関西の金元治先生の言われた、私たちクリスチャンは新約、旧約というお薬を服用し、日曜毎に教会病院に通院し、時々アシユラムという病院に入院して癒されて健康が保たれるという名言をもう一度助言者よりの言葉として感謝しつつ。

地区アシユラム予告

●第四十二回関東アシユラム

とき・二〇〇四年九月二十日
月・二十二日(水)

ところ・山崎製パン箱根山荘
助言者・後宮俊夫師

●第三十八回関西シユラム

とき・二〇〇四年十月十日(日)
十一月(月)

ところ・国際交流セミナーハウス
皇子が丘荘

●第三十九回九州アシユラム

とき・二〇〇四年九月十九日
(日)・二十日(月)

ところ・カトリック黙想の家(宗像市)

第三十五回城北アシユラム報告

奥田 二郎

城北アシユラムは日本ホーリネス教団、池の上教会、日本基督教団、新宿西教会、更生教会の三教会が会場持ち回りで毎年二月十一日の建国記念の日に行われております。本年は、更生教会で行われ、十五教会から六十三名の出席者を得て午前十時から午後五時まで、恵まれたひとときを過ごす事が出来ました。

今年の主題は「弟子となしたまへ」で、十五名の初参加者が与えられた事は感謝でした。

「開心の時」は日基東京新生教会横山義孝牧師によって、「ここに参加の方一人一人が全てを神に明け渡すことによってアシユラムが始まる」と導いていただきました。

「静聴の時」は、更生教会、原田牧師により、ヨハネによる福音書十一章十五節から二十三節が示され、出席者の中から導かれた聖書の箇所を披露し合う時を持ちました。

「福音の時」は、日基西川口教会、島牧師により、アシユラムで育てられたご自分の経験を先ず話され、マ

ルコによる福音書十章の「富める青年」に触れられ、「人には出来ないが神にはできる」と締めくくられました。

「充滿の時」は、池の上教会、島津牧師の指導により、ヨハネによる福音書十二章の「一粒の麦」の聖言を説き明かしていただきました。

最後に参加者全員が輪になってアシユラム聖歌を歌い、横山牧師の指



導による「イエスは主である」「イエスは甦られた」「イエスは実に甦られた」を全員で唱和し散会しました。祈りの細胞も八分団に分かれ、午前はニードを出し、午後はニードの応答を披露しあい、祈りの時を持ちました。

アシユラムは三十回以上開かれておりますが、回を経ると共に平均年齢が高くなっており、今後は若い参加者が待たれるところであり、今年には特に新しい参加者に向けて、分かりやすいように話していただいた事が今回の城北アシユラムの特徴と思っております。

編集後記

当誌次号に投稿歓迎！地区、教会アシユラム報告(適当な写真一葉)あかし等。八百字以内。五月末迄。宛先。東京都東久留米市野火止二一九一十五

東京新生教会 横山 義孝宛
TEL FAX 0424-77-5290・Eメール tokyosinsei@mx10.ttcn.co.jp
各地区の諸活動に祝福を祈りつつNo.135をお送りします。(Y)

東京都目黒区中央町1の21の10
碑文谷教会発行
日本クリスチャン・アシユラム連盟
振替口座 東京〇一〇〇一一四五五八
理事長 大石嗣郎
編集人 横山義孝
定価 一部60円 千80円